

## 西山地区

コミュニティ協議会だより

### 【(西風) 令和7年度5月号】

発行：西山地区コミュニティ協議会

会長 中村史傳

編集 中村美也子

令和7年5月9日発行

薩摩川内市下飯町瀬々野浦 1194

TEL 09969-5-0122

FAX 09969-5-0355

## これからの行事 (5月の行事)

- 7日 高齢者健康体操 13:00
- 11日 下飯マラニック
- 12日 第三回事務局会議 10:00
- 14日 防災会議 18:30
- 16日 トシドン保存会 15:00
- 18日 高齢者サロン 11:30
- 18日 地域内清掃 7:00
- 26日 第四回事務局会議 10:00
- 27日 下飯地域校外生活指導連絡会

## 令和七年度地区コミ総会が開かれる

令和七年度西山地区コミュニティ協議会の総会が四月二十日に開かれました。令和六年度事業報告・決算報告。令和七年度事業計画・予算等が承認されました。

なお本年度は役員改選の年に当たりましたが、現役員が残留という形で二年間のコミ協活動を推進していくこととなりました。

会長からは「働らき」と「楽しみ」のあるコミ協活動を実現しようという挨拶がありました。

また今年西山関西郷友会の会長と副会長が帰省されていて故郷の現状とコミ活動の様子を出郷者の皆様にも伝えてほしいということでオブザーバー参加してもらいました。これが契機となって出郷者の皆様にも足しげく帰ってきていただけたらという思いがします。ご参加有難うございました



## ● ヨモギ採り

四月



六日

晴天の中、朝八時に集合しヨモギ採りに出かけました。二十名程集まりそれぞれ乗り合わせ殆どの方が大内線に向かいました。私にとっては初めてのヨモギ採り。まずはどれがヨモギなの？というところからでした。葉っぱの裏が白いものをどっさり袋に入れ一時間もかからないうちに大袋二袋集まり、ほっとしながらコミセンに戻ってきました。すでに十名ほどの方々で、ヨモギのせーべー(整理)が始まっていました。その手さばきの早いこと早い事。私たちの数倍の早さでザルはあつという間に一杯になり、次はちぎった葉を煮る作業が始まり次々とゆだったヨモギたちが絞られジューブロックに収まり冷凍保存されました。今年は三十四袋できました。八時から昼をまたぎ二時頃まで本当にお疲れさまでした。その日の夜はヨモギを煮た汁を持ち帰りヨモギ風呂で疲れを取られた方もいたようです。

よい経験をさせてもらいました。 中村美也子

● クルーズ船 寄港

四月十七日 クルーズ船がナポレオン沖に停泊し  
ゴムボートで約百五十名程の観光客が西山の港に  
下り立ちました。



ボンジュウール

● 開田畑しのへ

四月二十五日 前日に放送し呼びかけました。それ  
ほどの人手は要しませんという呼びかけでしたが  
十一人も参加されおかげさまでとてもきれいな畑  
になりました。ありがとうございました。いい芋が  
沢山収穫できますように。

● 頂きました



中村幸作さんから寄贈して頂きました。

故郷をさぐる

25

耕して天に至る

昭和四十六年五月の連休の頃に撮影した写真  
である。現在の大井手線を登って手打行き・  
青瀬行きの分岐点と交わる地点（三叉路付  
近）から撮ったものだ。西部林道もここまで  
開通しており、大井手線はなく旧青瀬道をこ  
こまで登って来て手打に用事があつて車待ち  
をしている合間に撮った。

当時学生だったが、手打から車がきてくれ  
た。片道の運賃が土方のアルバイト一日分  
も相当するぐらいで奮発したものだ。（帰りは  
汽船で青瀬に来て草で覆われた青瀬道を帰っ  
た）

写真はカラーがぼやけて鮮明さが失われた  
がタダラメ迫からコモイ迫・メーノヒヤのカ  
ープで折り返し向井までゴットイと（完全）  
通じている。削られた山肌の道は色新しく、  
シンヌウラにも「モーターゼーションの時  
代」が到来したことを思わせる。

大桑木（ウウガノキ）とおぼしき田には水  
が張られ、田植えも近いだろう。何といつて  
も圧巻なのは耕して天に至る段々畑だ。当時  
は当たり前の日常の風景で何も感激はなかつ  
たが、今樹木やダテクや竹やぶにおおわれた  
山になった風景と比べると半世紀も前の景は  
感動と感慨を呼び起こしてくれる。

自給自足の色合いが濃かった昭和三  
十年代までのシンヌウラの原風景（げん  
ふうけい）が棚田と段々畑だ。田の一枚、  
畑の一枚でも多く残そうとした祖先の  
汗と努力の結晶が耕して天に至る風景  
なのだ。

山ひだに築かれた石垣の石一つ一つ  
に祖先の思いが凝（こ）っていたのだと  
思うと目頭もうるんでくる。父母の代ま  
ではなんとかこの風景が維持できてい  
たが、この風景を失った私たちの世代は  
祖先の思いにそむいた不肖の子孫にな  
るのだろうか。

中村史博

